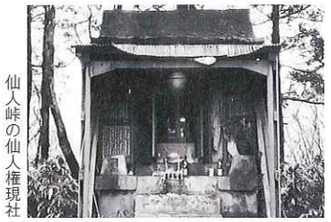
どこにも無い　四季と湯の里 …… 西和賀町

1 仙人峠の仙人権現（久那斗神社）と姥杉（徒歩可）

湯田ダムの南、一キロ地点にある仙人峠は険阻で難所が多く、人馬の死傷が絶えなかった。秀衡は仁平年間（一一五一～）に往来の安全を祈って、先祖秀忠の霊を仙人権現として祀ったと伝えられる。社前の秀衡街道沿いにそびえ立つ樹齢八百年余の「姥杉」は、神木として植えたものという。平成十二年林野庁の「全国森の巨人たち百選」に選ばれた。

仙人峠の「姥杉」と秀衡街道


仙人峠の仙人権現社（現久那斗神社）

2 大荒沢銅山製錬所跡

平泉藤原氏時代は金山でしたが、その後は主に銅鉱山として発展しました。明治十七年、北上市の齋藤辰五郎が起業、同四十三年以降は藤田組が経営、隆盛時には千人余の従業員が働いていました。からみ煉瓦で造られた二基の煙道が往時を偲ばせます。

大荒沢銅山製錬所の煙道と煙突跡

3 峠山の一里塚

峠山一里塚（西和賀町指定史跡）は江戸前期の築造と推定されており、元文四年（一七三九）沢内代官所書上絵図にその名が記されています。また、仙人峠から峠山の板敷野に至る秀衡街道も仙北街道と呼びかえられ、脇往還として記されております。

仙北街道の一里塚（江戸時代）

4 めっこかじかの沢

大石沢の和賀川向いの岩滑沢には、昔から「めっこ鰍」がいるといわれています。「めっこ」とは方言で片目が見えないことで、前九年の役の金沢の柵の戦いのおり、この地で戦った八幡太郎義家の家来、鎌倉権五郎景政が痛めた片目を岩滑沢の水で癒したことから、めっこかじかの沢と呼ばれています。

めっこかじかの沢

5 矢つくしの沢・安倍舘・八幡舘

前九年の役の時、この地を治めていた安倍頼時・貞任親子が安倍舘に陣を敷き、攻めてきた源頼義・義家が八幡舘に陣を取り和賀川を挟んで戦いました。一進一退の戦いの中で、大石沢に追い込まれた義家軍が最後の一本まで矢を射つくし、命からがら逃げ帰ったと言われる場所が「矢つくしの沢」です。

安倍舘

矢つくしの沢

八幡舘

6 鷲之巣金山緑青抗跡

赤倉鉱床緑青抗跡には、人がやっと通れるほどの坑道「たぬき堀」跡が、蜂の巣状に残っております。平泉藤原氏時代、街道沿いには鷲之巣（風倉山秀衡堀）や安久登沢（金商吉次の隠し金山）、草井沢、大石沢、大荒沢などの金山があったと伝えられております。鷲之巣の金鉱脈は、近代的採掘により拡幅された所もあります。大正時代、この地の鉱山で働く従業員の大部分は和賀郡と秋田県出身者でした。

鷲之巣金山緑青抗跡

「たぬき堀」跡と思われる坑道跡

7 峠山から鷲之巣口へ

峠山板敷野から南本内川河口を渡り、岩盤が滑らかに傾斜する岩滑沢をさか昇ると、道は西へ向い、さらに小峠を越えると鷲之巣金山跡が正面に見えてきます。

秀衡街道鷲之巣口

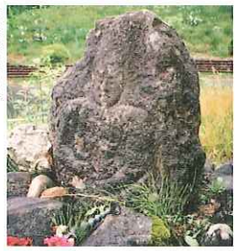
8 桧峠の大標柱

今は林道となっている桧峠（標高五一五m）は、鷲之巣から甲子（かっち）を経て湯川温泉に出る途中にあります。そばにある小さい標柱は「日の峠神」の名で朝鮮人技師によって昭和初期に建立されましたが、地元民から正式名称との要請があり、平成七年、湯川地区の有志によって「桧峠」の正式名で建立されました。

青森のひばの古材で造った大標柱

9 巣郷に祀られている道祖神

旧巣郷集落の北側、秀衡街道の小川に1mに満たない石橋があり、東脇に石仏が祀られていた。石仏は通行安全、悪疫防除をつかさどる道祖神で、彫像は不動明王像です。昭和三十年代まで、上黒沢の当麻曼荼羅（たいまんだら）詣でをする人達がこの道を往来していた。


道祖神の石仏

10 西の守護神（筏）（車可）

前九年・後三年両合戦の伝説を伝える城館遺跡、小野寺氏ゆかりの三十番神社（比叡山神社）、秋田県指定特別記念物「筏の大杉」が見られる。この近くに鎮座する仙人権現社（今の筏隊山神社）は、『雪の出羽路』に「仙人峠に鎮まる神霊を遷し奉った」とあるように、仙人権現（秀衡街道の東の守護神）から分祀された。それで、秀衡街道のシンボルとも言われる中尊寺ハスが、この仙人権現社にも株分けされることになった。

三十番神社の筏の大杉

筏隊山神社